

学校法人 福岡学園 平成28年度事業計画

本学園は、少子高齢社会へと変化する時代の流れの中で、医療、保健、福祉分野に対する社会のニーズ等に応えながら、第二次中期構想（2011～2016年度）の実現に向けて様々な事業に取り組んできた。

今回、第二次中期構想の最終年度を向かえるにあたり、引き続きこれまでの基本方針である「学生が意欲を持って学び、卒業生が誇れる母校」、「地域の歯科医療・医療・保健・福祉への貢献」、「口腔医学の推進による医療の進展への寄与」をモットーに、次期中期構想に向け、教員、職員、学生一人ひとりの個性や能力・経験を結集し、躍進する総合学園をつくるため、平成28年度の事業計画を次のとおり定める。

第二次中期構想	平成28年度事業計画
<p>1 教育に関する目標</p> <p>(1) 確たる倫理観を持ち、豊かな人間性を備えた、教養ある医療人の育成を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム及びディプロマ）に基づく教育活動を展開する。
<p>(2) 口腔医学の確立・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 口腔医学の学問体系の確立・育成に向けて、学界・医療界・行政等の理解・協力を得るため、関連国公立大学および関係諸団体との連携強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 口腔医学の推進に向けて、連携事業を企画・実施する。 ・ 日本歯科医学会総会において、口腔医学の理念に基づく学術プログラムを実施する。 ・ 大学では、連携7大学との口腔医学シンポジウムやFD研修等を継続して開催するなど連携関係を強化するほか、口腔ケアに関するモデルカリキュラムについて、戦略連携事業カリキュラム作成担当者会議において検討する。また、鶴見大学、神奈川歯科大学との協議を継続し、口腔医学の推進を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化社会における臨床現場のニーズを踏まえ、口腔医学教育の改善・充実を図り、医学（医科）と歯学（歯科）の連携強化を基盤とする有効なチーム医療を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周術期口腔管理件数を前年度より5%増加させる。 ・ 多職種連携を円滑実施し、チーム医療に関する教育効果の更なる向上を図る。 ・ 中村学園大学、福岡大学との3大学連絡協議会において、引き続き3大学の関連学科の多職種連携授業を実施する。
<p>(3) 歯学部教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな口腔医学モデルシラバスを導入し、一般医学科目の充実を図るとともに、医歯学連携演習や診療参加型実習の内容の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省選定事業「大学教育再生加速プログラム（学修成果の可視化）」の取組（5年計画）に基づき、教育支援・教学IR室を中心として、シラバス基本レイアウトにしたがって、全授業科目担当者に新シラバス（案）を作成させる。また、新シラバス（案）に関して、全学年の授業科目の行動目標とディプロマポリシー（コンピテンス・コンピテンシー）との関連付け、行動目標の学士力分類、評価基準の平準化を査定の上、授業科目担当者にその結果をフィードバックする。 ・ 診療参加型臨床実習において総括的評価を継続して実施する。 ・ ロボット実習及び医科系実習の充実を引き続き図る。 ・ 国内他大学での臨床実習の機会拡大を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己問題提起・解決型の創造力を持った人材を育成するため、学生の学習意欲や教育効果を高めるとともに、より精度の高い学習到達度の判 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1～4学年における総合試験の本格導入に向けて検討を行う。 ・ AO入試I期及び推薦入試の入学予定者に対する入学前教育の更なる充実について検討する。

第二次中期構想	平成28年度事業計画
定方法を開発する。	
<p>(4) 大学院の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度な研究能力と国際性豊かな人材を育成するとともに、高度専門職医療人を育成する社会人大学院の教育体制を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> 有機的なつながりを持つために、大学院教育課程（コースワーク）の体系化を更に高めて、研究基盤に関する能力の向上と豊かな学識と倫理性の修得を図る。 高度な口腔医学研究の場としての大学院を充実させるため、大学院生の定員を確保し、各研究センターとの連携を深めて大学院の活性化を図る。 社会人大学院生の受け入れについて、その在り方を引き続き検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 口腔医学を基盤とした新領域や融合研究領域など社会のニーズに対応できる高度な知的人材養成のための組織的・継続的な教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 協定校との情報交換を行い、積極的な交流を推進する。 再生医学研究センターを大学院生の研究活動拠点としての位置づけを確立する。
<p>(5) 医療短大の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 医科歯科総合病院・介護老人保健施設等との連携により、高度かつ実践的な教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 特例適用認定専攻科の論文指導で、変更・強化すべき点等について検討し、対策を講じる。 退学防止と国家試験対策の観点から、引き続き、成績不振、欠席過多学生の早期把握、指導を充実させる。 3年次学生、専攻科生に対して昨年度の口腔医療センターでの実習についてアンケート調査等を実施し、臨床実習の充実を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 口腔保健・口腔介護（要介護者への口腔ケア）教育を充実し、歯科衛生士・介護福祉士への志向を高めるとともに、専門的口腔ケア技術の教育内容・指導方法について継続的に検証・改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「口腔介護技術」（専門的口腔ケア教育）の内容充実のため、プログラムを再編する。 歯科衛生学科では、「口腔介護推進歯科衛生士」の資格要件である高齢者施設でのボランティア活動等の拡大（学会並びに短大主催の認知症カフェ「かふえもりのいえ」）を図る。また、「口腔機能向上推進歯科衛生士」の資格取得の教育指導を充実させる。 保健福祉学科では、福岡市エリアの介護福祉士養成校の中で初の登録研修機関として認定を受けた医療的ケア教育について、専門教育の充実と学生募集につながる検討を行い、志願者増に繋げる。 平成26年度からの文部科学省選定事業「大学教育再生加速プログラム（タイプ I・II 複合型）」のこれまでの教育実績と成果の検証の取り纏めを実施し、平成28年度の文部科学省中間審査に向けて準備を進める。 昨年度行ったアクティブ・ラーニングやルーブリック評価に基づく学修成果の解析結果を踏まえ、改善と活用の促進を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 社会のニーズ等を踏まえて、歯科衛生学科の学士課程への転換および保健福祉学科の存続・改廃等、短期大学の将来的な在り方を抜本的に検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学士課程に対応できる教員の研究推進とその成果発表、民間の研究助成金の申請に全学的に取り組み、短大教員の資質向上を図る。また、FD、抄読会での研究発表を継続するとともに、科研費申請に係るブラッシュアップを早期に実施する。 保健福祉学科では、短期大学活性化委員会を中心に、他の養成校との教育の差別化を図るとともに、口腔ケア・医療的ケア専門教育等を更に充実させる。

第二次中期構想	平成28年度事業計画
<p>(6) 教員の教育能力および教育の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業評価とその検証方法の整備、組織的研修活動の継続実施等により、教員の教育能力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> F D委員会の元に設置の各WGを中心に、F D活動（①学生支援の充実に関するF D、②教員の資質向上に関するF D、③大学院及び研究の活性化に関するF D）を引き続き推進する。 「大学教育再生加速プログラム（学修成果の可視化）」の取組により、コンピテンス・コンピテンシーを加えたシラバス基本レイアウトに関するF D、ワークショップを開催する。 教育支援・教学I R室を中心に、学生の授業評価アンケートの分析を、教務システムと連動させ、集計結果のフィードバック方法の改善を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ファカルティ・ディベロップメント（FD）の一環として、授業研究懇談会、授業の相互参観、セミナー等、教育の質の向上のための取り組みを強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に配慮が必要な学生の指導について、専門家によるセミナー等を開催し、助言教員の指導力向上を図る。
<p>(7) 国家試験</p> <ul style="list-style-type: none"> 歯科医師国家試験合格率の上位定着および共用試験の全員合格を目指し、歯科衛生士・介護福祉士国家試験については全員合格を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 第110回歯科医師国家試験において新卒者合格率の上位を目指す。また、共用試験において第4学年に対する早期補強対策に努め、正答率の向上と本試験の全員合格を目指す。 歯科衛生学科では、昨年度の国試対策を総括し、成績不振者の教育方法について検討のうえ、対応策を立案し、国家試験の100%合格を目指す。 保健福祉学科では、今後の国家試験の義務化にも対応できるよう、2年次を対象とした国家試験対策教育指導を継続・推進する。
<p>2 研究に関する目標</p> <p>(1) 研究の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 口腔医学を基盤とする基礎的・応用的研究および社会のニーズに応える先進的研究を推進するとともに、関連する大学・研究機関との連携による研究を漸進的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携センターを中心に早良区、城南区、朝倉市、糸島市の超高齢地域住民の調査を実施し、当該地域の高齢者の生活・健康情報を段階的に収集し、得られた情報を分析して、地域の持つ課題を発掘してニーズをまとめ、解決方策を研究する。成果を論文として公表できるよう努める。 早良区と連携して認知症予防事業を展開し、口腔機能への介入が軽度認知障害の重篤化予防におよぼす影響について検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 研究マインドの涵養に努めるとともに、国内外の若手研究者や意欲的な研究活動に対する支援のため、研究マネジメント体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度導入した科研費新規採択率向上方策の検証を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 学内の研究センターを活用し、時代のニーズを先取りした研究の遂行、関連する情報データの収集・分析等により、口腔医学領域の研究教育拠点を創出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 先端科学研究と老化制御研究に携わる研究者が共同して取り組むために合同研究会合を実施する。

第二次中期構想	平成28年度事業計画
<p>(2) 先端科学研究センター</p> <ul style="list-style-type: none"> 「疾患の抑制におけるゲノム安定性と環境ストレスの制御」に関する研究の一層の充実を図り、研究基盤形成支援事業を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中間報告書の提出に向け、研究活動の活発化を図り、2つのグループによる討論を充実させるとともに研究発表会を開いて中間まとめを行う。
<p>(3) 再生医学研究センター</p> <ul style="list-style-type: none"> 「生体内環境を調和する硬組織再建システム」に関する研究を充実して、研究基盤形成支援事業を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 私立大学研究基盤形成支援事業に係る新規研究プロジェクトの採択に向けて研究計画を立案する。口腔歯学部を設置された利点を生かしながら本学における再生医学研究の基盤を作る。また、硬組織再建に携わる専任教員を充足し、細胞組織学的研究と医療工学的研究を融合した研究活動の活性化を図る。定期的に研究成果発表会を開催して、研究者間の情報共有を図る機会を設ける。その他、歯学研究科でのリサーチワークを支援し、口腔医学研究を遂行できる専門医療人の育成に寄与する。
<p>(4) 老化制御研究センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本研究プロジェクトの最終年度に当たるため、これまでの研究をさらに発展させ、目標達成に努める。また、先端科学研究との合同研究会合を計画する。
<p>3 学生の支援等に関する目標</p>	
<p>(1) 修学等の支援</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 学生のニーズに応える修学支援システムや主体的学習支援体制の整備・充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「大学教育再生加速プログラム（学修成果の可視化）」の取組により、全学年にかかるアセスメントポリシーを確立し、項目別評価基準を規定する。 学務課と教育支援・教学IR室が連携し、助言教員が担当学生の成績、出席状況等の修学情報をタイムリーに把握し、成績不振学生や意欲の乏しい学生に対する個別面談を実施することにより、指導の迅速化を図る。 短大では、学修成果の可視化の観点から実施している大学IR学生調査を明倫短期大学（新潟）との連携協定の取組として充実させる。25年度からジェネリックスキルについての学修評価を推進しており、更なる充実を図る。また、学生健康診断としての歯科口腔健診を継続実施する。
<ul style="list-style-type: none"> 口腔医療、口腔保健、口腔介護を志向する高校生を適切に支援するため、高校との連携教育プログラムの開発等による連携促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 中高生が口腔医学の必要性や歯科医師の社会貢献等に関する理解を深めるよう、オープンキャンパスの充実を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 学生の経済支援・課外活動支援の充実や口腔医療分野への就職機会の拡充を図るとともに、学生共済会や同窓会との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 奨学金制度や学費減免制度等に加え、TA・SAを含めた学生に対する経済的支援の更なる充実に向けて検討する。
<p>(2) 学生の受け入れ</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 真に国民の医療・保健・福祉に貢献しようという学生を確保するため、入学制度や試験制度の在り方について不断の見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学では、優れた学生を確保するため、魅力ある大学づくりを目指し、選抜方法の在り方について引き続き検討する。 短大では、SWOT分析の結果に基づいた学生募集活動（重点地域、重点校への訪問）を継続実施する。また、高校訪問時に歯科衛生士、介護福祉士への昨年度進学実績と28年度の進学予定者を調査し、効率的な高校訪問・募集活動を行い、定員確保を

第二次中期構想	平成28年度事業計画
<ul style="list-style-type: none"> ホームページでの入試広報機能の充実、同窓会との連携等によるリクルートの拡充等、戦略的で積極的な学生募集活動を行い、募集人員の確保に努める。 	<p>目指す。専攻科については、他校への学生募集、広報活動を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学園全体のホームページを統一感のあるものにするためのリニューアルに向けて検討する。 看護大学の開学に向けて看護大学のホームページを立ち上げる。 各施設の情報発信力の強化のため、公式アカウント運用に関するSNSガイドラインを策定する。 受験生や患者以外の方等へ幅広く広報活動をするため、大学概要を作成する。また、地域の病院等への周知を図るため、病院概要を作成する。 病院紹介ビデオ放映に関する患者アンケート調査を実施し、学園PRおよび学生募集に活用するとともに、患者ニーズを踏まえた編集を検討する。 歯科大学受験生が本学に進学した際の大学生活が具体的にイメージできるよう、講義や実習風景、クラブ活動等の様子を動画で配信することについて検討する。 ホームページの利用者向上のため、ホームページ各サイトへのアクセス履歴の収集・分析を継続して実施する。
<p>4 社会との連携・貢献に関する目標</p> <p>(1) 医科歯科総合病院における、安全で良質な医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 効率的な診療責任体制を構築するとともに、医科と歯科の連携システムを整備・強化し、患者中心の安全かつ質の高い全人的医療を提供する。 診療要員を安定的に確保し、土曜日診療等の充実を図るとともに、先進医療に対応できる人材を育成する。 最新の医療セミナー等を開催し、先端的医療知識の理解と普及を図るとともに、卒前教育・卒後研修については実践的・効率的な教育・研修プログラムの整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 実務担当者会議に医科歯科連携の議題を毎回上げて連携を促進する。 福西会病院・拾六町病院への訪問歯科診療に係る患者数について前年度比5%増加に努める。 土曜日の診療の体制を再考し、改善案を提出するほか、歯科大診療室の土曜日患者数について前年度比5%増加に努める。 研修歯科指導医講習会を開催し、協力型施設の指導医数の増加、指導医の再教育を行う。 生涯研修プログラムを再考し、受講者数の増加（1プログラムあたり15名以上）に努める。
<p>(2) 医科歯科総合病院の管理体制の整備・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 病院内コンセンサスに留意しつつ、病院全体の視点から機動的・戦略的に病院運営を遂行できるマネジメント体制を確立する。 各診療科や病院全体の運営の効率化と財政基盤の充実に資するよう、各診療部門別管理会計データ等を整備・活用する。 患者数および診療単価の増加、病床数の増加および適正な病床稼働率の 	<ul style="list-style-type: none"> 看護師、歯科衛生士などのコメディカルスタッフを採用し、その専門性を活用して円滑な病院運営に努める。また、医療安全の専従者を中心に医療安全管理体制を充実させる。 診療報酬請求額の前年度比5%以上増加に努める。また、医師、看護師、事務職員の連携を強化し、長期休暇期間の入院患者数を確保する。 外来患者数を前年度比3%増加に努める。また、病床稼働率を70%とし、診療報酬請求額の目標を16億2千万円とする。

第二次中期構想	平成28年度事業計画
維持を図り、毎年度数値目標を設定し、目標達成に努める。	・病床に関する情報収集や関係機関との調整等を行い、引き続き増床に取り組む。
・ 病院の新築等および病院施設・診療設備等の効率的かつ計画的整備を図る。	・ 病院長、副院長、病棟長等で構成する病院新築小委員会（1か月に1回）を定期的に開催し、新病院の基本理念、基本方針を決定のうえ、基本設計等の具体化を行う。
(3) 口腔医療センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者数に関する数値目標を設定し増収に繋げるとともに、経費の削減を図る。 ・ 新たな歯科医師臨床研修プログラムの開始に伴い、実践的・効率的な教育・研修プログラムを整備する。
(4) 介護老人保健施設、介護老人福祉施設 ・ 地域の保健・福祉への貢献とともに、大学・短大等の教育・研究の場および地域のボランティア活動の場として活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護老人保健施設は、在宅復帰率30%を達成し、病院からの紹介件数を増やすとともに、入所者数1日平均83人以上（稼働率：97%以上）を目指す。 ・ 短大の介護職員初任者研修カリキュラムの講師派遣に積極的に協力する。 ・ 地域のボランティア団体活動の場を提供するとともに積極交流を進め、施設紹介・見学等を行い利用者増に繋げる。
・ デイケア、デイサービスの利用者増を図る。	・ 介護老人保健施設では、病院の地域連携室や居宅支援センター等に訪問・営業活動を行い、デイケア利用者数1日平均40名を目指す。
(5) 社会連携、国際連携 ・ 西部地区五大学および地下鉄七隈線沿線三大学の連携を推進し、地域貢献活動を拡充する。	・ 西部地区五大学および地下鉄七隈線沿線三大学において、引き続き大学間で連携して、取組み可能な地域貢献活動を具体化し実施する。
・ 県・市および歯科医師会等との連携を拡充し、公開講座や歯科医師卒後研修等の教育・研修プログラムを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携センターを中心に、早良区との包括連携協定締結に向けて協議を進めるほか、認知症カフェの田村校区への定着を推進する。また、歯科医師卒後研修委員会において、受講者アンケート等に基づきプログラムの内容等について検討するとともに、福岡県内の歯科医師会へ訪問する等して広報を強化する。そのほか、一般市民の生涯学習に資するため、引き続き公開講座を実施する。 ・ 短大では、地域連携を更に推進するため、プラザを中心とした認知症カフェ「かふえもりのいえ」の取組を推進する。また、引き続き福岡県・市歯科医師会および福岡県歯科衛生士会と連携し、歯科衛生士及び歯科医師のリカレント教育「口腔介護スキルアップ講座」や両学科が連携して公開講座を実施し、高齢者や要介護者の口腔機能向上のための口腔介護教育を通して、地域社会に貢献する。そのほか、田村校区での夏祭り、運動会、認知症カフェ等を通してボランティア活動を拡充する。
・ 海外の医歯系大学・研究機関等との教育研究連携を積極的・組織的に展開し、ネットワークを構築・拡充する。	・ リバプール大学歯学部（イギリス）との交流関係を促進するとともに、姉妹校との交流環境の変化に対応した交流内容の見直しやマンダレー歯科大学（ミャンマー）とのLOA締結を進める。
・ 優秀な留学生確保のための活動を推	・ 各国の大学の情報収集を引き続き行い、留学生の受け入れ等を

第二次中期構想	平成28年度事業計画
進するとともに、学習支援、経済的支援を充実する。	積極的に推進する。
5 組織運営に関する目標	
(1) 組織運営の改善	
<ul style="list-style-type: none"> 教育研究のマネジメントや組織体制の在り方について不断の点検と見直しを行い、本学の使命に照らした適正な全体規模、組織やキャンパス施設の在り方について積極的に検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな学園創造に向けて、「第三次中期構想」を策定する。 個性的で魅力あるキャンパスづくりのため、病院改築計画等を踏まえ、教育研究施設等の再配置を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 教員の雇用および勤務形態について、研究・教育・診療の実際と必要性に応じた、柔軟で多様な人事制度を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度策定の「大学教員の人事計画」、「短大教員の人事計画」に基づく人事を進める。 福岡看護大学（仮称）の人事考課マニュアルを策定する。
<ul style="list-style-type: none"> 事務や事業の見直しを加速し、コスト意識を徹底するとともに、事務組織の効率化を図り、必要に応じて事務組織の再編・統廃合を行うとともに、職員の採用・配置については長期的な経営戦略等を踏まえて計画的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度策定した「事務局（一般職）の人事計画」に基づく人事を進める。 マイナンバー制度への対応状況の検証を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 人事考課システムを効果的に活用するとともに、業績評価を充実し、大学運営の活性化を図る。事務職員について、業務評価・業務改善を主眼として人事考課制度を活用し、職員の主体性を持った業務遂行の促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 人事考課に基づく業績評価の在り方について検討する。 省力化及び効率化をテーマに、階層別のグループワークを中心とした事務職員の各種研修会を実施する。
(2) 財政基盤の確保	
<ul style="list-style-type: none"> 学園の自己資金である基本金等について、安全かつ有利な運用を行うとともに、教育研究振興基金等の計画的な積み立てを引き続き行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 資産運用については、前年度並みの受取利息の確保に努める。
<ul style="list-style-type: none"> 外部資金獲得を促進するため、外部資金に関する情報の収集や申請事務円滑化のための支援体制を整備するとともに、学内の研究計画とのマッチングなど外部資金獲得につなげる取り組みを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度導入した科研費新規採択率向上方策の検証を行う。 施設設備やICT等の大型事業については、関係者（事務課・教員）に文科省の施設整備費補助金等の各補助項目について内容を周知し、補助金制度の積極的活用を促す。 寄付金募集のさらなる強化に向け、現行の受け入れ方法の費用対効果を検証するとともに、新たな受入方法を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 医療の高度化を図り、高度かつ良質な医療を提供するとともに、病院の効率化・私費料金等の見直しを行うことにより収入の増加を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保険点数の取り漏れ、自費診療料金の見直しを通して、収入増を図る。 病診連携を推進するとともにサービスマナーを徹底させ、医療の質の更なる向上に努める。
<ul style="list-style-type: none"> 業務運営の合理化・効率化を図るとともに、費用対効果が有効な業務について外部委託を実施する等、管理 	<ul style="list-style-type: none"> 年間契約物件等の見直しにより、経常的経費の削減に努め、物品調達については、引き続き単価契約の見直し、競争見積りの強化及び効率的かつ経済的な調達を行う。また、看護大学設置

第二次中期構想	平成28年度事業計画
<p>的経費の抑制に努める。</p>	<p>に伴う物品等の調達についても調達価格を再度見直し、経費節減に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ストレスチェック業務の一部外部委託を検討する。 ・ エネルギー使用合理化を引き続き推進し、熱・電気等のエネルギー使用量削減に努める。
<p>(3) 評価システムの充実および情報公開等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己点検・評価を適切に実施するとともに、実施した自己点検・評価等の結果を分析・活用し、実施方法や効果等について継続的な見直し改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己点検・評価委員会において、「福岡歯科大学 '15 改善報告書」を作成し、ホームページで学内外に公開する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の機能評価を平成24年度に、大学の認証評価を平成25年度に、短大の認証評価を平成26年度に、それぞれ受審する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受審済
<ul style="list-style-type: none"> ・ 財政状況および教育研究活動等についての積極的な情報公開に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財務情報については、改正学校法人会計基準に対応した正確で分かりやすい情報提供を行う。 ・ 教育情報については、大学ポर्टレートの活用を含め、最新情報を迅速に提供するとともに、内容の充実を図る。
<p>(4) 安全管理および法令遵守</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生や地域の人々にとって快適・安全で環境に配慮した魅力あるキャンパスづくりを計画的に推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働者のメンタルヘルス不調を事前に防止するため、ストレスチェックの導入に向け、衛生委員会、産業医等との事前協議を進める。 ・ 快適・安全な学生の学習環境に配慮したキャンパスを作るため、エコやアメニティを考えたキャンパス整備を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育、研究、診療、運営の全ての学園活動を支える安全安心な情報管理体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書台帳未入力データの入力作業完了に伴い、入力データの点検と同データの図書システムへの取込・点検を行い、利用者サービス向上の一環として、情報図書館所蔵の蔵書情報を充実させる。また、情報図書館図書管理規則に則り、図書システムを活用して蔵書点検を実施する。 ・ 教育研究を支える学内LANを高速化するため、各フロアのスイッチをFastEthernet (100Mbps)からGigabitEthernet (1Gps)に更新し、快適なサービスを提供する。また、安全・安心な情報環境を維持するため、学外ネットワークから学内LANを守るFireWallについて補完機を伴った更新を行うとともに、堅牢なセキュリティを実現する設定を行う。セキュリティ講習について、新規採用者には採用時の初級受講を徹底し、中級未受講者には中級受講を推進することで、全教職員のセキュリティ意識向上を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監事および公認会計士と連携して内部監査を適正に実施し、顧問弁護士など外部専門家と連携して各種ハラスメント等に適切に対応するとともに、学園経営・業務運営適正化のための法令遵守を徹底する取り組みを強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハラスメント防止体制強化に向け教職員及び相談員に対して講習会を実施するとともに、相談員に外部研修を促す。 ・ 公的研究費に関するガイドラインに基づき、適正な執行管理を行う。 ・ 内部監査の実効性を高めるため、監査担当者と前年度の内部監査結果等の検証を行う。

(参考) 社会福祉法人学会関連

第二次中期構想	平成28年度事業計画
<p>4 社会との連携・貢献に関する目標</p> <p>(4) 介護老人保健施設、介護老人福祉施設</p> <ul style="list-style-type: none">地域の保健・福祉への貢献とともに、大学・短大等の教育・研究の場および地域のボランティア活動の場として活用を図る。	<ul style="list-style-type: none">介護老人福祉施設は、厚労省の新レジプラン(認知症対策)を受け発足した認知症カフェ「かふえもりのいえ」での活動を継続実施する。また、入所稼働率98%を確保するとともに、新設サンシャインセンター(平成28年2月開設予定)との連携を密にし、ショート稼働率75%を目指す。そのほか、新採用職員研修及び大学・短大との共同セミナーを充実させる。サンシャインセンターは、地域の高齢者との交流を活発にする。
<ul style="list-style-type: none">デイケア、デイサービスの利用者増を図る。	<ul style="list-style-type: none">介護老人福祉施設では、デイ利用者数1日平均19名、無料体験者30名を目指す。